

## 令和7年度第2回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

### 【開催概要】

- 日時 令和8年2月17日(火) 10:00～11:50
- 会場 岡山県庁3階大会議室
- 出席者 <委員(五十音順)>  
三村会長、加賀副会長、赤木委員、井上委員、居原田委員  
上田委員、泉水委員、鳥越委員、中尾委員、長尾委員、  
松井委員、三宅委員、山本委員  
※委員15人中13人の出席であり、本審議会は成立  
<事務局>  
環境文化部：國重環境文化部長、宮野文化スポーツ振興監、  
矢吹参与(おかやまマラソン担当)、  
松本スポーツ振興課長  
子ども・福祉部：藤本障害福祉課総括参事  
教育庁：吉山保健体育課総括主幹

### 1 開 会

### 2 あいさつ

#### ○環境文化部長あいさつ

- ・今年度は県内でインターハイの熱戦が繰り広げられ、備前市出身の山本由伸選手のメジャーリーグ・ワールドシリーズでの MVP 獲得、J1 残留を決めたファジアーノ岡山による盛り上がりがあった。
- ・ミラノ・コルティナ冬季オリンピックでは、本県ゆかりの木村葵来選手がスノーボードビッグエアで日本選手団第1号の金メダル、フィギュアスケートの吉田唄菜選手が団体で銀メダル獲得するなど、大変スポーツで岡山が盛り上がっており、まだ競技が残っている選手や、パラリンピックでは新田佳浩選手が出場予定であり、県民に夢と希望を与える活躍を期待する。
- ・本県としても、引き続きスポーツを通じて県全体に元気を届けることができるよう、各政策にしっかりと取り組んでまいりたい。
- ・本日は、来年度のスポーツの推進に係る主な事業、スポーツ団体への補助金について諮るほか、学校部活動の地域展開について、国のガイドラインが示されており、その関係で協議をしたい。限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見を頂戴したい。

### 3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

#### (1) 令和8年度スポーツの推進に係る主な事業について

資料1

##### ■事務局説明

- ・資料に沿って説明

##### ■質疑等

###### 基本施策Ⅰ

(多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出) 関係

【学校における体育・スポーツ活動の充実】

(副会長)

- ・高等学校部活動支援事業は、競技人口が少ないところを支援していくとあるが、例えばどんな種目を考えているか。  
(保健体育課総括主幹)
- ・競技人口が少ない競技で特に環境整備面のサポートを要する高等学校部活動を支援するものだ。この事業は令和3年度から行っており、令和3年度はヨット・フェンシング、令和4年度はカヌー・ボート、令和5年度は自転車競技と少林寺拳法を支援している。現在は、部員数が県内過去3年平均で150人未満の競技に支援を行っている事業である。

###### 基本施策Ⅱ

(アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築) 関係

【アスリート育成パスウェイの構築】

(委員)

- ・スポーツとの出会い創出 晴れの国！スポーツパスウェイ事業について詳しく教えてほしい。過去にあった未来のトップアスリートを作ろうという事業との違いは何か。  
(スポーツ振興課長)
- ・7ページに概略図がある。
- ・夢アスリート事業が以前はあり、競技性に特化していた。
- ・もう少し間口を広げて、各競技団体が体験会を開いているが、いきなり体験会に来ていただくのは難しい。学校の体力テストとは違う観点のメニューも含めながら、体力測定をしたうえで、いきなり競技を選ぶのではなく、こういったスポーツが向いているというアドバイスをする機会を年2回設け

る。その測定会の中で簡単な体験もできるようにしたいと考えている。夏に1回行い、各競技団体の体験会も活用しながら、冬にもう1回実施したいと考えている。小学生なので半年たてば測定の数値も上がるので自分の成長を知ったうえで実施したい。春頃のスポーツ協会のスポーツフェスティバルの体験会も含めながら、自分にあったスポーツを探していくことでスポーツに繋いでいけたらと考えている。

(委員)

- ・夢アスリート事業は選抜されていたが、スポーツパスウェイ事業は来た子が体験できるのか。また、現在競技しているかは関係ないか。

(スポーツ振興課長)

- ・募集人数はあるが、前もって選抜するのではなく、自分の意志で自由に参加できる。現在競技している子が新たな競技を試してみる機会にも、競技していない子が新たな機会であるということも両方の機会を考えている

(会長)

- ・測定会の規模はどうか。1回目と2回目は同じ人を想定しているか。

(スポーツ振興課長)

- ・今のところ200人程度を予定しており、1回目と2回目は同じ人をお願いしたいと考えている。

(委員)

- ・障害のある子どもも測定し、その子にあう体験会を検討してもらえるのか。

(スポーツ振興課長)

- ・障害のある子ども達については、現段階では想定していない。

(委員)

- ・今後、検討をお願いします。

(副会長)

- ・7ページの概要図では、小学校でスポーツを探そうとし、中学校で部活動の地域展開があり、つながらずに矢印がアスリートのパフォーマンス向上までジャンプしてしまうように読み取れる。スポーツパスウェイ事業を実施することで将来のアスリートに繋がると思うが、中学校期が一つのポイントということか。

(スポーツ振興課長)

- ・部活動の地域展開については、協議事項の際に詳しく説明するが、休日の部活動を地域でやるのが令和8年度からの方向性だ。

平日は部活動をしつつ、休日は地域でということに、全国的に6年間でやっていくことになっているので、平日であれば部活動もあり、休日であれば地域展開において地域クラブ活動に参加することができる。

- ・一般的に小学校の時に地元でスポーツをしていて、中学校で部活動に入ってしまうが、中学校に入っても、その地域クラブで活動できる場所も国の方は期待している。
- ・いろいろな選択肢ができるが、それぞれの活動がしっかりしないとスポーツ活動は継続できないので、今回の新しい予算において、地域クラブ活動支援の補助金もあるので、活用してもらいながら、地域の活動を充実していくことになる。

(委員)

- ・私は夢アスリート事業に関わったが、トータルでオールラウンドの体力を持っている子が、必ずしも強くなっていないという結果だった。成功したのかどうかと言われると疑問もある。
- ・競技で最も優れた子を育てるためには、底から上げてきてトップを作るというやり方はあまり成功しないと言われている。
- ・体力テストを10年以上やってきたが、体力テストがずっと上だった子が、競技でトップになるというわけでもない。トータルでオールラウンドの体力を持っている子を育てるのではなく、得意な競技に特化するようなやり方があっていいのではないか。
- ・ミラノオリンピックを見ていて、モーグルの選手が競技練習会場を求めて移住したということもある。オリンピックで優勝を狙う話であるが、特化するようなことをやらないと勝てない。
- ・体力をつけることはトータル的に大事だが、競技力を目指していく時には卓球大好きで卓球ばかりやっている子が強くなることもある。
- ・どういう方向へ持っていくのかをもう少し考えてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・スポーツを考える時に、競技スポーツの柱と、生涯スポーツの柱の両方が非常に大事だと思う。
- ・今回スポーツの出会い創出については、できるだけスポーツに結びつけることが大切で、いきなり競技性ということは考えておらず、いろいろスポーツがある中で、まず好きなスポーツや自分に合うスポーツを探してもらう機会にしたい。測定をするが、トップアスリートを求めるための測定ではなく、どの種目が向いているのかという観点で実施する。
- ・もしかしたら将来のトップアスリートが生まれるかもしれないが、この事業で生み出そうということではなく、あくまで生涯スポーツも含めたスポーツの出会いの場を今回作っていきたい。

(会長)

- ・以前の夢アスリート事業に私も関わったが、あの事業からトップアスリート

が出てきたら良かったが、難しかった。今回の事業は、トップアスリートが出てくるかもしれないが、それよりは、スポーツの裾野を広げることだと思う。

(委員)

- ・子供の数が減っているが、どのようにスポーツ人口の減少に対し取り組むのか教えてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・少子化もあり、スポーツ人口の減少を危惧している。  
スポーツの裾野拡大が課題と考えており、その一つとして新しくスポーツの出会いの創出事業ということも始めさせていただく。また、既存事業の中でもスポーツ人口が減少する中、スポーツをする機会、スポーツに関心を持ってもらえるよう取り組んでいきたい。

(委員)

- ・パスウェイ事業資料 7 ページ概要のところ、スポーツとの出会いについて、一番入口は小学生であり、学校の授業がますます大事になると思った。
- ・積極的にスポーツに関わる子供たちは、それぞれでスポーツをすると思うが、学校の授業は全ての子供たちが参加するので、まさに授業でスポーツが楽しい、やってみようという気持ちを育めるような取り組みがあって、そこで楽しいと思った子が県の事業に参加してくれたらよいと考える。
- ・競技に繋いでいくにあたって、どの段階で繋いでいくのか。  
この事業は小学校 4 年生から 6 年生の話だと思うが、中学生、高校生、あるいはもっと大きくなってから、個人個人の特性が見えてから、この競技によりマッチするというので、パスウェイを使うことができれば、競技力を高めるといふ部分にも繋がっていくと思う。

(委員)

- ・スポーツパスウェイ事業であるが、1 会場だけでなく、県北等でも平等に行ってほしい。
- ・一つの会場に参加を募ると、遠方により交通手段の都合で行けない人や身体的に行けない人たちには、こちらから出向いていくアウトリーチ的な活動が必要ではないか。
- ・小学校 4 年生から 6 年生で開始するエビデンスがあるのか。  
人の体は中学生や、高校生になっても成長し続けて成長と変化を伴う。小学校 4 年生から 6 年生で決定するのは、競技スポーツの入口である中学高校の 6 年間のことしか考えていないと思う。中高のために小学校教育や幼児教育があるのではない。
- ・人それぞれ体の成長には個人差があり成長の時期があるため、エビデンスが

ないのに学年別に分けるのは気になる。

- ・幼小期から同じスポーツをして来た選手が世界大会やオリンピック選手になっているわけでもなく、むしろ自分がやりたいスポーツをいろいろしてきた選手が今、大学生以降に結果を出している例もある。
- ・パスウェイ事業資料 7 ページ概要の小4～小6という書き方は、6年間にすぐ直結するような形になるので、言葉での説明や文書の説明の中で誤解のないようにしてほしい。

## (2) 令和8年度スポーツ団体への補助金について

### 資料1

#### ■事務局説明

資料に沿って説明

#### ■質疑等

(委員)

- ・オリンピックで木村葵来選手の優勝があったが、オリンピックを見て、やってみたいという声が結構ある。裾野を広げることも大事だが、トップアスリートとの出会いも大きい。
- ・ファジアーノの選手が学校に来てくれることは、人数の少ない学校の子供たちの刺激になる。

(会長)

- ・トップアスリート派遣事業は、手を挙げる学校は多いのか。
- ・就学前から中学校ぐらいまで希望がある。予算は変わらないが、毎年多くの希望がある。
- ・学校の場合には、学校の授業と内容を合わせないといけないので、この機会に来て欲しいという希望と、派遣する選手とかクラブがこの時期に行けないということでマッチングが難しいこともあると聞いている。
- ・事業の順番というのは、県では決められないので、スポーツ協会にお願いし、できるだけそのご要望に応えていきたいとは思っている。

(委員)

- ・トップスポーツ選手と触れ合うことと、継続的にスポーツを行うことと両方必要であるが、学校の中にスポーツに興味がある先生がいることが大事だと思う。保健体育課のみんなでチャレンジランキングは非常にいい取り組みであり、近くの小学校でも長縄を授業で行い、休み時間にも自主的に行っている。ホームページに結果を掲載し、競っている。
- ・教員の配置も必要で、1回トップアスリート選手に来てもらって、そのときはすごく盛り上がりやってみたいと思うが、やはり日常の先生がスポーツ

に対して、どのように興味を持っているかということが大事だ。先生にアプローチする、トライできるものを用意するいい事業だと思っているので、ぜひ来年度も実施するようになっていますが、継続していただけたらと思う。

### (3) 協議事項 資料2

テーマ

「部活動の地域展開について」

#### ■事務局説明（スポーツ振興課長）

（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

#### ■協議

（委員）

- ・改革の方向性だが、令和8年度から6年間の改革実行期間で、休日原則全ての学校部活動で地域展開の実現を目指すとするが、学校部活動において地域展開を実現するというのは、具体的にはどういうことか。何を目指しているのか。
- ・令和8年度から6年間ということは、13年度までに地域展開を実現し、休日は学校での部活動は全然やらないことを目指すのか。
- ・子供たちのスポーツ環境を確保するというのは、国としても、これまで子供のスポーツ環境を大きく担っていた学校の部活動では難しいから、その部分を地域のスポーツクラブで子供がスポーツをすることができる環境を確保できないかということだと思うが、6年後どういった形を目指していくのかを教えてほしい。

（スポーツ振興課長）

- ・今回、国のガイドラインができ、実施の主体は市町村が考えていく。認定地域クラブは基本的に各市町村でその体制を整えていくことになる。
- ・認定については諸条件があるが、各市町村が直営です、委託でやっていただく、各団体に補助してやっていくこともある。
- ・学校における部活動については、休日は将来的には原則行わないという方向性になるのではないか。

（保健体育課総括主幹）

- ・地域展開が実現した状態についてだが、学校部活動を休日全部廃止するとなると、子供たちのスポーツ文化芸術環境が整ったことにはならないというのは承知している。
- ・今まで土日で部活動に参加してきた人たちが、市町村が認めた認定地域クラ

ブで活動できるとなると、教育的意義も継承され、安心安全な活動ができる  
と思っている。

- ・競技力に特化した認定されていない地域クラブも、その活動が良い悪いとい  
うことではなく、競技力を向上させたいという気持ち強い生徒が活動し  
ているケースがある。
- ・土日の部活をやっていた人たちが、地域で完全に活動できる状態というの  
が、地域展開が実現できたという形になる。

(委員)

- ・学校部活動は、中学校と高校があるが、この6年間で地域展開の実現を目指  
すのは、高校も含めて全部のイメージか？

(保健体育課総括主幹)

- ・高校は、状況によってはそうすることが望ましいぐらいだと思っている。基  
本的には公立の中学校を対象にしている。

(委員)

- ・学校現場では生徒は部活動の中で一生懸命に競技活動をしている。
- ・子供の数自体は減っていく中で、今までの部活動のあり方が、なかなか維持  
しにくい状況であっても、工夫しながら、例えば複数校の部活動が集まって  
合同の形でやるとか、よりよい指導を受けられる形を求めて、地域のクラブ  
と学校の部活動がうまく交流するような形を模索したり、いろいろな形が  
あると思っている。

(委員)

- ・国が出しているガイドラインも地域展開という言葉と、地域連携という言葉  
があって、地域連携というのは合同部活動、拠点校などを言っている。
- ・部活動自体は、平日も含めて考えると、なくならないというイメージだ。地  
域展開はもちろん進めていくが、その地域の実態に応じて、地域展開を進め  
られるところは進めるが、部活動のままがよいところは、部活動のままでも  
よいということか。

(保健体育課総括主幹)

- ・令和8年度国の予算概算要求では、国の予算は補助事業で行うと言われて  
いたが、12月に出た国の補正予算では、平日も含めたところには実証事業  
として10/10出すことが示され、国の平日に対する本気度が示されたと思  
っており、これが令和13年度まで続いていくと予想している。
- ・ただ、休日の地域展開と、平日の地域展開は、難しさが大きく異なると考え  
ており、平日は令和10年度末に中間評価を行い、そこから国が方針を示す  
と言われている。
- ・当面は、平日の部活動が残るという認識だが、ただ、国としては平日も含め

た地域展開を目指すことは間違いないと聞いている。

(委員)

- ・ 20 数年前に総合型地域スポーツクラブが全国で作られているが、スポーツ協会の会議に出たが、認知されている総合型地域スポーツクラブが約 40 で、それから国・県に認知されている総合型地域クラブは約 20 だ。数としては県内網羅するには足りていない。本来そういうところがきちんとできていれば、部活動の受け皿になっていたと思うが、そうはなっていない。
- ・ 当初、令和 5 年から令和 7 年ぐらいで地域展開を行うと言っていたが、令和 8 年から令和 13 年まで延ばされており、また先延ばしになるのではないかと心配している。見直しはあるか。

(スポーツ振興課長)

- ・ 県も最終地点は分からないが、部活動の地域移行は、少子化の中で、子供たちが文化スポーツ活動を続けられるようにということがきっかけだった。
- ・ 子供たちが学校で参加することが難しいので、地域の方の協力や、地域の場所を使いながら、実施していくといった認識をしている。
- ・ 求めるところは変わっていないが、そこに至る過程において様々な整理をしないといけないことが見えてきて、期間的なものが少しずつ伸びている。
- ・ 県としては、国の動きを注視しながら、まずはこの 6 年間というところをしっかりと地域の中で活動ができるように取り組んでいきたい。

(委員)

- ・ 令和 8 年度中国ブロックで全国大会をするが、現行の規模の大会としては最後の大会となり、令和 9 年度からは、例えば水泳・相撲・ソフトボール男子・体操・新体操・ハンドボールなどの競技を減らして実行していく。より持続可能な大会を目指してブロック開催をしているのを、駅伝はこの場所とか、スキーはこの場所とか、拠点化して行っている競技もあり、そういうことを目指しながら、企業とかの看板も活用しながら、何とか模索しながら、持続可能な大会を目指していくので、大会自体は継続されると思っている。
- ・ ここから先の大会は、学校の部活動とそれぞれ自治体で認定された地域スポーツクラブが参加するような大会になっていくと今のところ思っている。
- ・ 子供の居場所を作ることがスタートで始まったとすると、それが全て地域に任せたらうまくいくのかと言ったら、個人的にはそうは思っていない。週に何回かしかやらない文化の部活動は、その回数の中で活動している。それを地域に出したときに、受け皿ができるのかという不安はある。スポーツに関してもその不安はもちろんあり、平日ということになると、学校はその時間

帯に指導者を集めることは難しい。そうすると夜も学校開放している社会体育の部分と重なりながらやるようになっていくと思う。子供たちはいったん家に帰り、また夜出てきて活動を行うことになる。

- ・指導者の確保と質の問題ということは、すごく大きな問題だ。学校の先生は教育的意義を持ちながら指導しており、それが地域の指導者にも教育的意義を持ちながらやっていけるのか不安もある。その辺り何か見通しが持てたら教えてほしい。

(委員)

- ・前回の審議会で学校運動部の地域展開、地域移行について、様々なことが国から示されるが、子供たちのスポーツ環境をしっかりと担保しようと発言をした。
- ・国のガイドラインが示され、県としてこういうガイドラインを作りました。市町村は東西南北あり、温度差がある。県はどのように取りまとめをするのか。
- ・総合型地域スポーツクラブというのが作られ、その時には、運営費に対して国の補助があった。何分の1かは県が補助していたと記憶している。国の補助がなくなり、その後当時の日本体育協会が補助金を出して運営したが、それもなくなった。岡山県で認証クラブ22あるが独自に経営している。
- ・国が最初は支援する。ドイツがモデルケースだ。ドイツは学校運動部ではなく、クラブチームでやっている。それを取り入れて移行していくとのことだが、上手くいっていない。今回もそういうことを考えると、国は本当にできるのか。
- ・県のガイドラインの中に、今後の予定ということで、関係団体等へ意見照会とあるが、どういう関係団体なのか。
- ・結局のところ新しい新規事業をパスウェイでやります。子供たちが広くスポーツに出会う場面を作ります。それが小学校から中学校にいき、部活動の地域展開を進めるとのことだが、本当に地域において担うことができるのか。
- ・保健体育課は今までやっていた実証事業についての予算、あるいは所管していた事業をスポーツ振興課に移管し、連携して実施すると言っているが、それで学校運動部地域展開が形になるのか。
- ・子供たちを中心に置いて、子供たちのスポーツ文化環境の場を担保できるように進めているのか疑問だ。
- ・幅広い意見を聞きながら令和8年度から6年間取り組むとのことだが、岡山県の特異的なところも考えながら、慎重に取り組んでもらいたい。

(会長)

- ・いろいろ課題があると思うが、何が出来ない原因で、岡山県としての課題は何かをつめていきながら一步でも前に進められるよう、子どもがスポーツをできる環境になるように岡山県として進めてほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・地域展開が始まって数年経つが、全国的に課題が様々ある。指導者の確保や、活動場所の確保、それから今までは学校の先生が指導し、生徒は無料で指導を受けることができたが、地域でとなると、指導者の謝金も必要となる。それを誰が負担するのかという財源的な課題もある。
- ・全国的に進めることになる、どうしても財源が大きな課題となる。これまで部活動指導員の経費は、国の補助制度があり、地域クラブ活動を展開していく中では、テスト的に行う事業について、国がある程度基本的なものがあつたが、なかなか実施したい市町村が全て手を挙げてできる状況ではなかつた。
- ・今回、全国的な展開をしていくということになり、市町村が地域クラブ活動を作る、あるいは地域にある活動団体を下支えするというような経費的な支援を、令和8年度から国や県もしっかりと取り組むことになっている。
- ・地域で活動するに当たっては受益を受ける側にも少し負担していただきながら、財源的な面は国や県も下支えをしつつ、取り組んでいく。
- ・指導者については、平日の指導者確保と休日の指導者確保の難しさは、活動時間も違うことから当然あるが、県としては今まで地域の方にお声がけをして、地域のスポーツ活動の指導者あるいはサポーターになってくれるよう取り組みをしており、引き続きしっかり行いたい。課題は様々あるが、できることから、取り組みを進めていきたい。

(委員)

- ・受益者負担が発生することは否定しない。自分が生涯スポーツ、スポーツが好き、楽しみとか、アスリートを目指し高みを目指すことに関して努力をするのに当然発生するだろう。しかしながら、できるだけ負担を軽減していただきたいというのが一つある。
- ・一番問題なのは指導者の問題だ。地域に適応できる指導者がいればよいが、例えば県北で水泳をしたいという場合に絶対ミスマッチが起こる。子供たちはどうしても水泳をやりたければ越境せざるを得ない。子供の能力を伸ばしてやろうということで、保護者に送迎の負担もかかる。それは構わないということ、市町村と関係団体の意見照会ということで取りまとめていくことになる。
- ・保健体育課に質問だが、全中で今年が最後になる競技種別があるが、残る競

技はどのぐらいあるか、今年全てが廃止か。中体連で考えるのか。

(スポーツ振興課長)

- ・ガイドラインについては、本日委員の皆様の意見をお聞きしている。また、市町村やスポーツ協会、各競技団体から意見を聴く。
- ・ガイドラインについては、市町村に認定を行う地域クラブ活動の認定要件等を記載している。越境してもよいとか具体的に子供たちにこうして欲しいとかということを書いているものではない。これから6年間で各市町村にやってほしい認定の地域クラブ活動についてのガイドラインを定めたものだ。

(保健体育課総括主幹)

- ・令和9年度以降は、競技人口が多い競技が残ることとなるが、令和9年以降も継続して協議することとなっており、参加できるチームは、部活動及び中体連が認めたクラブチームとなる。また、全国大会の試合方式は、従来のトーナメント方式ではなく、リーグ戦方式に変わると聞いている。
- ・教育に関する関係団体は、中体連、高体連、中文連、高文連、中学校長会、高校校長会の6団体に意見照会をすることとしている。

(委員)

- ・強くなるためには筋肉を休息することも大事で、以前は部活が水曜日や土曜日などが休みであったと思う。国の教育方針でも個別最適な学びや誰一人取り残すことのない学びをと言われており、学校教育は常に平等であってほしい。

(委員)

- ・子供もこれからどこかに集まって活動することになると、時間とお金が今までと違ってくる。これから6年間改革実行期間があるが、さらに子供たちの数が減っていく。中山間地域は今既に小・中学校の統廃合を進めている。どこかでまとめて活動するのは本当に時間とお金が難しくなっていて、本当にやろうとする子にとっては保護者の負担が非常にでてくる。
- ・先生の兼職とか、小中一貫にすれば、小学校の先生と中学校の先生が垣根なくできていくのかと思う。これから中山間地域で、確実に実施していかなければならない。子供たちがいないので、小中一貫の流れが出ている。小中一貫も含めてやらないといけない。
- ・競技を本当にやるという子供と、楽しむという子供と、どういうふうこれから分けていけるのか。本当はやりたいけど、環境的にできないというのはかわいそうだ。

(委員)

- ・市町村間で温度差がある。自分はかなり温度の低いところに住んでいる。

- ・小中高の部活動とは別で、やはり小さい時から子供にいろいろな経験をさせたいと思う親の1人だが、どんなところで運動できるか問い合わせたところ、あまりいい情報を私が住んでいるところでは得られなかった。母子保健とも関連するかもしれないが、キャッチしたいと思っている人間にとって情報が届かない場合もあると思っている。
- ・一方でもう一つ思ったのは、市町村に委ねるところだが、例えば認定地域クラブ活動の指導者を探すときに、どうやって発掘するのか。もし自分が市町村に勤めているとして、一体誰をスカウトするのか。発掘する方法は自治体に投げたとしても、とても大変ではないかと思う。地域の中で誰か指導者を探して、デメリットしか考えられない人であれば、活動をしたいと思うだろうか疑問だ。
- ・ボランティアを頼るのはすごくよい面もあるが、危うさもあるので、頼りきっては続かないのではないか。
- ・指導者とのマッチングのアプリがあったが、さらに今は地域スポーツクラブだけではなく、地域にある芸術的な活動も含めた、マッチングを入れていくことを聞いたので、検索を試みたが、その中には、スポーツ以外の芸術的な活動、絵を描いたり、太鼓を叩いたりとか、地域の活動に入り込めるような活動も入っているので、子供たちのスポーツに限らない、開かれたよい面だと思っているので、もっと活用が広がればよいと思う。

(委員)

- ・今の認定制度は認定されなかった場合はどう対応したらよいか。
- ・スポーツ庁の話聞いて、地域展開をネタに何とかお金儲けできないだろうかというような業者が出てくると心配している。
- ・県北と県南の格差がものすごくある。  
新見である種目の土日の部活動をやっているが、20キロかけて子供を送迎しなければならない。  
毎週は大変なので、月に1回だけやっているが、そういった格差を、どう解決するか、そういった策も国のガイドラインの中にもあるが、到底できそうにないと思う。

## 5 報告事項 資料3

- (1) ~ (4) は時間の都合上、資料配布のみとし説明は省略
- (5) 令和7年度全国高等学校総合体育大会の成績について
  - 事務局説明
    - 資料に沿って説明
- (6) 令和7年度全国中学校体育大会の成績について

■事務局説明

資料に沿って説明

(7) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

資料に沿って説明

## 6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・長時間にわたるご審議に感謝する。
- ・専門的なご見地からの様々な貴重なご意見を活かしながら、将来に向けて様々な課題の解決に努めていく。
- ・令和8年度には、全国中学校体育大会、国民スポーツ大会中国ブロック大会が岡山で開催される。
- ・引き続きご指導ご鞭撻をお願いします。